

## HBs抗原・抗体

< どんな検査か？ >

B型肝炎ウイルスの感染を診断

< HBs抗原・抗体とは？ >

肝臓障害の原因には、アルコールの飲酒や、A型肝炎(HA)、B型肝炎(HB)、C型肝炎(HC)などのウイルスがあります。なかでもB型肝炎ウイルスは、急性肝炎、慢性肝炎から肝硬変、さらに肝ガンへと病気を進行させるウイルスと恐れられています。このウイルスに感染しているかどうかを調べるのがHBs抗原・抗体の検査です。

HBs抗原が(+)、HBs抗体が(+という結果ならば、B型肝炎ウイルスに感染していること)になります。しかしHBs抗原が(+でもHBs抗体が(-)の場合は肝炎が発病しないこともあります。これを無症候性キャリアと呼んでいます。無症候性キャリアの場合は、将来発病する可能性があるため、半年に一回は専門医にかかり、定期的に検査を受けたほうがよいでしょう。

## HCV抗体

< どんな検査か？ >

C型肝炎ウイルスの感染を診断

< 検査でわかること >

C型肝炎については、輸血による感染などさまざまなことがわかってきましたが、C型肝炎ウイルス自体はまだ十分に解明されていません。しかし感染すると、血液中に抗体ができるため、抗体の有無で感染しているかどうかわかります。

C型肝炎ウイルス(HCV)の感染があると陽性(+)、なければ陰性(-)とでます。しかし、抗体は、感染後一ヶ月で血液中に現れるため、感染直後の検査では陰性でも、一ヶ月後に陽性となることがあります。